



**Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム**  
**招へい（太平洋同盟グループ）の記録**  
**テーマ：防災と ICT 利活用**

## 1. プログラム概要

**【目的】**参加者は日本の情報技術を活用した防災対策に関する講義に加え、東日本大震災を経験した南三陸町で地域住民と直接対話をする事等を通じて、日本の防災・減災対策および ICT<sup>(注1)</sup>サービスの活用事例や取り組みを学び、自国で活かすことを主目的として実施しました。

(注1) ICT(Information and Communication Technology)：通信技術を活用したコミュニケーション

### 【参加者】

太平洋同盟加盟国 4 か国<sup>(注2)</sup> の若手行政官 計 19 名

(注2) コロンビア、チリ、ペルー、メキシコ※五十音順

### 【訪問地】

東京都、宮城県（南三陸町）

## 2. 日程

### ■ 事前学習（オンライン）：

1月25日（水曜日）【オリエンテーション】来日前オリエンテーション、本プログラム事前説明  
指定期間 【ウェビナー】日本理解講義、日本語学習動画 視聴

### ■ 来日プログラム：

1月30日（月曜日）羽田空港よりペルー訪日団入国

1月31日（火曜日）羽田空港及び成田国際空港よりコロンビア、チリ、メキシコ訪日団入国

2月1日（水曜日）【オリエンテーション】来日時オリエンテーション

【表敬訪問】外務省 外務副大臣 武井 俊輔 氏

総務省 大臣官房 総務審議官 竹内 芳明 氏

【ブリーフィング】

【視察】二重橋

2月2日（木曜日）【視察】日本科学未来館

【視察】東京臨海広域防災公園、「そなエリア東京」

【視察】NTT ドコモネットワークオペレーションセンター

【視察】NTT ドコモネットワークオペレーションセンター株式会社 NTT ドコモ  
ネットワーク本部 サービス運営部 原田 真由 氏

【テーマ関連講義・動画視聴】「情報通信技術を活用した防災・減災の取組事例」

講師：株式会社 NTT ドコモ ネットワーク本部 サービス運営部 災害対策室  
松井 直弘 氏

【レセプション】在日ペルー大使館

2月3日（金曜日）【テーマ関連講義】「災害リスク管理におけるICTの利活用」講師：総務省 国際戦略局国際協力課長 国際展開課長 寺村 行生 氏

東京都から宮城県へ移動

【自治体表敬訪問】宮城県三陸町役場 南三陸町 担当：南三陸商工総務課危機対策係 係長 小野 寛和 氏

2月4日（土曜日）【テーマ関連視察】「南三陸311メモリアル」（南三陸町東日本大震災伝承館）

【日本文化視察】ひころの里（文化複合施設）

2月5日（日曜日）【ホームビジット】宮城県南三陸町の3家庭

【ホームビジット歓送会】

【ワークショップ】報告会準備

2月6日（月曜日）宮城県から東京都へ移動

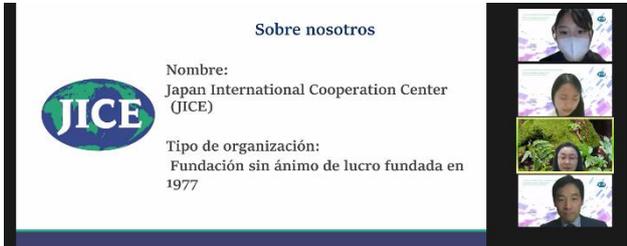
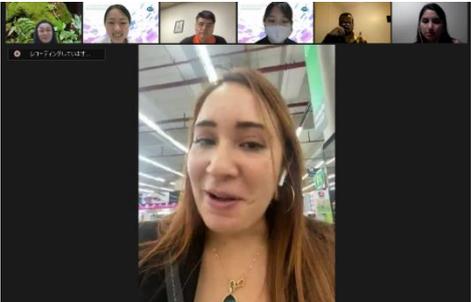
【報告会】

羽田空港よりペルー訪日団出国

2月7日（火曜日）成田国際空港よりコロンビア、チリ、メキシコ訪日団出国

### 3. プログラム記録写真

事前学習

 <p>Sobre nosotros</p> <p>Nombre: Japan International Cooperation Center (JICE)</p> <p>Tipo de organización: Fundación sin ánimo de lucro fundada en 1977</p>	
1月24日【オリエンテーション】	1月24日【オリエンテーション】自己紹介

来日プログラム



2月1日【表敬訪問】外務省



2月2日【テーマ関連講義】聴講の様子



2月3日【自治体表敬】宮城県南三陸町役場



2月4日【テーマ関連視察】南三陸町東日本大震災伝承館～南三陸311メモリアル～



2月5日【ホームビジット】宮城県南三陸町の家庭



2月5日【ホームビジット】集合写真



2月6日【報告会】



2月6日【報告会】報告会で修了書授与

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ コロンビア 社会人

各機関・企業への訪問で、日本の災害リスク管理の取り組みを実際に目に見える形で見せていただいたことが最も印象的でした。

##### ◆ チリ 社会人

交流テーマに関してはこれ以上特に改善する点もないほど素晴らしかったです。今回の経験はとても充実していました。

##### ◆ メキシコ 社会人

印象に残った点は以下3点になります。

- ・南三陸 311 メモリアルでは、津波によって引き起こされた災害に向き合い、学び、後世に活かす取り組みをしていること。
- ・日本人家庭の生活に招き入れていただいたこと。
- ・エンジニアの研究が、災害からの復興に貢献していること、次に起こりうる災害のリスクに備えて対策していること。

#### 5. 受入れ側の感想（抜粋）

##### ◆ 視察先

参加者からも積極的に質問して頂き、お互い有意義な時間になったと思います。

##### ◆ 視察先

当日は通訳の方のご協力もありスムーズなご案内ができましたこと感謝申し上げます。見学内ではプログラム参加のみなさまから多くのご質問をいただき今回のご見学を通してドコモのネットワークへの関心・理解を深めていただけてうれしく思います。また、今回のご見学が本施策の目的に少しでもお役に立てていれば幸いです。

## 6. 参加者の対外発信、報道記事等



2023年2月1日（Instagram）チリ  
まだご存知ない方へ  
私は今、防災とICT活用という日本政府のラテンアメリカ向けプログラムに参加しています。

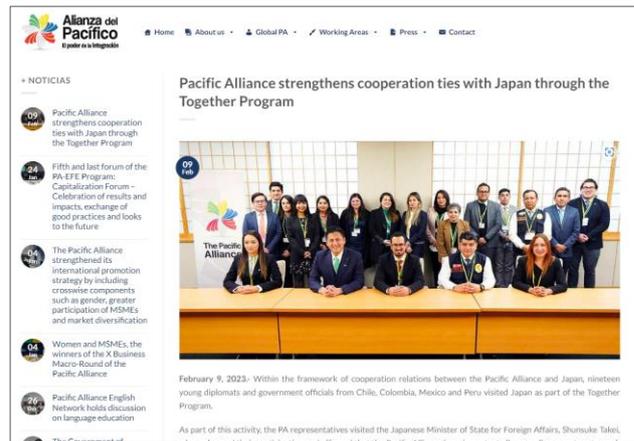


2023年2月2日（Facebook）メキシコ  
私たちは日本の宮城県にある南三陸町という町に  
来ています。ここでは2011年に津波が起きて、  
悲しいことに1万人以上の方が亡くなりました。  
「南三陸311メモリアル」は、この恐ろしい出来事  
の犠牲者の方々を思い起こす場ではありますが、  
この美しくも寒い場所に住む方々の生きた声  
を聞いて、防災について考え、学ぶ場所でも  
あります。



<プログラム名>  
Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム  
<実施概要>  
2011年に東日本大震災で甚大な被害を被った宮城県南三陸町。昨年10月には、震災での経験を伝える伝承施設「南三陸311メモリアル」が開館しました。震災直後にスタートした「まちあるき語り部」等、震災を次世代に語り継ぐ活動が多く行われているこの土地で、防災について学び、地域の人々と交流するプログラムを行いました。プログラムには、中南米の若手行政官が19名参加し、対日理解交流促進を目的としています。  
<行程>  
2月3日（金）【自治体表参】南三陸町役場

2023年2月9日（産経新聞 web ニュース）  
中南米の若手行政官が、南三陸町で防災や地域文化について学ぶプログラムを実施



2023年2月9日（太平洋同盟 HP）  
太平洋同盟の国々は、Juntos!!プログラムを通じて日本との協力関係を強化しました。

## 7. 報告会でのアクション・プラン発表



### ■ アクション・プラン

- ・2023年2月～3月に国家災害リスク管理機関（UNGRD）<sup>（注3）</sup>及び科学技術イノベーション省、外務省（ともに参加者の所属機関）の行政官や同僚に、日本で学んだ防災・減災についての教訓や良好事例を紹介する。国際連合地域開発センター（UNGRD）に対しては2/28、科学技術イノベーション省に対しては3/31、外務省に対しては4/28に行く。
- ・国際連合地域開発センター（UNGRD）と京都大学の間での協定の調印と実行する。
- ・
- ・機関同士での連携、教訓や良好事例の紹介、目標や機会の設定を行う。

（注3）国家災害リスク管理機関（UNGRD）：コロンビア国内の災害リスクを管理している機関（Unidad Nacional para la Gestión del Riesgo de Desastres (gestiondelriesgo.gov.co)）

## チリ



### ■ アクション・プラン

#### 1. 実施計画

SENAPRED<sup>（注4）</sup>、SUBTEL<sup>（注5）</sup>（今回の参加者の所属する機関）でビデオやリールを作成する。

#### 2. 実施理由

学んだことをより深め、情報をまとめて多様化します。日本での学習をより総合的なものにし、相互作用を促したいから。

#### 3. 実施時期

3か月後に実施予定。

#### 4. 実施する者

今回の Juntos!! プログラム参加者

#### 5. 実施対象者

日本大使館の協力を仰ぎ、チリ全体に広めていく。

## 6. 実施方法

伝統的な日本文化を伝える。

(注4) SENAPRED：内務省国家防災対策庁

(注5) SUBTEL：運輸通信省（Subsecretaría de Telecomunicaciones）の略。

### ペルー



## ■ アクション・プラン

### 1. 実施計画

ICTをさらに発展させ、国家警報システム（P-アラート）<sup>(注6)</sup>を作る。具体的には、災害の際に、迅速かつ効率的な情報を住民に発信できる施設を作る。

### 2. 実施理由

地方、地域、国の当局が発する避難勧告などの災害関連情報を、放送局や通信会社などさまざまなメディアに一斉配信することで、住民に迅速かつ効率的に災害情報を公開することができるようにするため。

具体的には、早期警戒メッセージシステム（SISMATE）を緊急警戒速報（EWBS）と統合し、緊急メッセージの発信をより広範囲に行えるようにすることと、全国通信プロトコルを開発することを計画。

### 3. 実施時期

2023年から2024年にかけて。

### 4. 実施対象者

ペルーの全居住者。

### 5. 実施する者

PCM, MTC, INDECI <sup>(注7)</sup> 一体となって（今回の参加者の所属する組織）

### 6. 実施方法

アクション・プランの実践には投資を呼び込んで資金を調達し、さらに技術支援のために国際協力を得て進めていき、並行して国際協力による支援を得て警報システム構築を目指す。

(注6) P-アラート：ネットサーバーを中心として、そこからモバイル端末、携帯・スマホなど、サイレンシステム、テレビ、デジタルサイネージなどに速やかに情報を送信するもの

(注7) PCM: Presidencia del Consejo de Ministros 大統領、MTC: Ministry of Transports and Communications 運輸通信省、INDECI: National Institute of Civil Defense 国家防災庁

## メキシコ



**¿QUIÉN?**

La Secretaría de Economía y la Secretaría de Relaciones Exteriores en conjunto buscan profundizar aún más la asociación con Japón, a fin de facilitar el libre movimiento de bienes, servicios, capital y personas.

Los funcionarios representantes de dichas dependencias difundirán a través de sus redes sociales personales lo planteado en el presente Plan de Acción.



**¿CUÁNDO?**

Durante 12 semanas a partir del 13 de febrero y hasta el 5 de mayo se realizarán publicaciones semanales de diferentes tópicos.



### ■ アクション・プラン

- ・日本とメキシコの間を社会的、文化的、経済的、政治的に強化する。
- ・Juntos!!プログラムで学んだことをメキシコのコミュニティや国民に発信する。
- ・日本が、海外から来た人たちへ提供している文化的、社会的、価値観、観光、経済、技術などについて共有する。
- ・メキシコ人や海外の人と意見交換を行う。
- ・日本について研究を行っているメキシコの団体にも知識を伝える。
- ・今回の参加者がそれぞれに日本との関係を深める道を模索する。そして個人のソーシャルネットワークを通じても経験を発信していく。
- ・2/13 から 12 週間（5/5 まで）毎週異なるテーマで写真、ビデオ、Instagram のストーリー機能の一部であるリール、ツイートなどを用いて、ハッシュタグを利用し発信する。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター (JICE)